

## 産科長 就任のご挨拶



平成25年1月1日付で産科長を拝命致しました。何卒よろしくお願い申し上げます。

私は昨年春まで三重大学病院に在籍し、20年余り地域周産期医療に携わって参りました。この度、八重樫教授より東北大学とのご縁を賜りました。主たる勤務場所は、周産母子センター産科病棟となります。今後の私の役割として、まず大学病院周産母子センターの患者さんにベストの医療を提供することは第一であると考えますが、それと同様に大切なのが、現場の医療者が安心して安全に医療を行えるような環境（体制）作りであると考えています。この環境作りがマンパワーの維持と以下に述べる病院内外の連携力の強化と大学病院としての機能強化につなげることができると考えるからです。



センター内の連携は医師及び助産師・臨床心理士等のもとより、新生児の先生との連携が重要です。さらに当院では、母体の基礎疾患合併の方が多く、各専門内科、精神科、外科、IVR科、救命救急センター、集中治療科、そして麻酔科の先生方や検査技師の方々の連携なしには診療を行っていくことはできません。当院の妊婦さんの多くは母体合併症や胎児異常、母体救命疾患の患者さんが多く、素早い連携を介した対応を現場で図る必要があります。母体や胎児の急変は予期なく生じます。出血等の母体救命疾患は当院に集中して搬送されます。年間約1,000件の分娩（うち400件は帝王切開）に加え、緊急搬送症例が200件程あり、病棟は1日中休む暇なしの状態です。さらに当院は、宮城県の3つの基幹周産期医療センターのうちの1つとして機能しています。院内だけの連携のみならず、3つの基幹センター間の連携はもちろん、他の2次施設、1次施設間の連携を取ることが、宮城県下の周産期医療の維持・発展に欠かせないと考えています。

このような状況下、現場の医療者がモチベーションを持って医療を行える場の提供こそが患者さんのために最高の医療提供につながると考え、現場で必死に頑張る医療者が大学病院としての臨床・教育・研究のバランスを図れるよう、調節する役割もあると考えております。

各科の先生方、専門職の方々には、急変時等のお願いでお手数をお掛けすることが多々あるかと存じますが、ご協力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

産科長 杉山 隆

『東北大学病院 病院だより 2013年2月号Vol241より許可を得て転載』